

ジャパン・エクセレント 担当ファンドマネージャーからのメッセージ(前編)

2017年3月15日

平素は、「ジャパン・エクセレント」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドの基準価額は設定日以降、堅調に推移しており、設定来(分配金再投資基準価額ベース)において80.7%上昇しています。同期間のTOPIX(東証株価指数)の騰落率は36.7%の上昇となっていることから、これまでのところは当ファンドの受益者の皆さまに対して高い付加価値を提供することができたと考えております。このたびは担当ファンドマネージャーからのメッセージをお伝えしたいと思います。

《基準価額・純資産の推移》

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2017年2月28日現在

基準価額	15,103 円
純資産総額	99億円
ベンチマーク	2,189.71

期間別騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1か月間	+2.6 %	+0.9 %
3か月間	+8.8 %	+4.7 %
6か月間	+22.7 %	+16.7 %
1年間	+29.7 %	+20.9 %
3年間	+81.3 %	+34.7 %
5年間	-----	-----
年初来	+6.1 %	+1.2 %
設定来	+80.7 %	+36.7 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※当ファンドはTOPIX(東証株価指数)(配当込み)をベンチマークとしていますが、同指数を上回る運用成果を保証するものではありません。

※グラフ上のベンチマーク(TOPIX(配当込み))は、グラフの起点時の分配金再投資基準価額に基づき指数化しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (14/07)	200円
第2期 (15/01)	700円
第3期 (15/07)	900円
第4期 (16/01)	0円
第5期 (16/07)	100円
第6期 (17/01)	700円

分配金合計額 設定来: 2,600円

※TOPIXの指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所(以下「(株)東京証券取引所」という。)の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利、ノウハウ及びTOPIXの商標に関するすべての権利は(株)東京証券取引所が有します。

※(株)東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出若しくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出若しくは公表の停止又はTOPIXの商標の変更若しくは使用の停止を行うことができます。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

＜運用ポリシー＞

基本的には短期間でなるべく高いリターンを上げるためにできる限りのことをしたいと考えております。そのためにさまざまな投資手法やスタイルを用いて運用を行っています。

私は2001年からファンドマネージャーとして運用業務を行っておりますが、なったばかりの頃は、好業績・割安株銘柄ばかりに投資していました。今では成長性を重視したグロース銘柄や不人気銘柄のリバウンド狙い、業績の上振れが期待される銘柄や材料株への投資などさまざまな運用手法を取り入れ、相場状況に応じて臨機応変に銘柄入れ替えを行っています。また、為替動向や金利動向、商品市況動向、金融・財政政策などを勘案したトップダウンアプローチにより、業種配分の調整なども行っています。

弊社エクイティ運用部には複数のチームがあり、私は「ハイブリッドチーム」というチームのリーダーを務めております。「ハイブリッドチーム」のメンバーは5名で、それぞれ性格や得意分野、ファンドの運用スタイルも異なるメンバーをあえて集めました。同じような志向のメンバーのチームですと相場が追い風のときは良いですが、逆風が吹いたときに全員が同じ負け方をして打つ手がない状況に陥ってしまうリスクが大きいのです。性格や投資スタイルの異なるメンバーがおのおのの長所を生かしお互いを助けあうことで、絶えず変化する相場環境の中でより良い運用成績が残せるように努めております。

具体的な運用プロセスとしては、年間5,000件以上の個別銘柄取材を行っている社内の調査部アナリストチームの情報を元に有望な銘柄の選定を行っております。それ以外にも、社外のアナリストや企業公開情報、銘柄スクリーニングによる銘柄発掘、チャート分析など、さまざまな手法を用いて投資候補銘柄の発掘を行っています。また、長期にわたって株式相場の分析を行っている経験豊富なストラテジストやクウォンツアナリストとの意見交換を行い、ポートフォリオ特性や業種配分などを決定しております。

＜ファンドの特徴＞

ファンドの特徴といたしましては、これからの成長余地の大きさを理由に、中小型銘柄や新興市場銘柄を多く組み入れています。トヨタ自動車のような大型株よりも上場間もない新興市場銘柄のほうに、売り上げがこれから倍になる可能性やそれに要する期間において、分があると考えからです。

また、バリュエーションの割安な銘柄を多く組み入れています。株式市場では中長期の成長ストーリーや材料・ニュースなど、耳当たりの良い情報が人気を集め、関連する銘柄の株価が一時的に急上昇することが頻繁にありますが、振り返ってみるとこれらの期待先行の投機的な投資により上昇した株価は、元の水準に戻っているということが往々にしてあるものです。一方、割安なバリュー銘柄は、短期的な市場の注目を浴びず地味な銘柄が多いですが、着実に業績を上げていき増配などで株主に還元することで、着実に株価が上昇していくケースが多く見られます。

さらには売買回転率が他のファンドに比べて高いことも特徴の一つです。株価は短期的に過熱しすぎたり、過度に売り込まれすぎたりする傾向にあるため、株価が順調に上昇し割高となった銘柄を売却し、株価が割安に放置されている銘柄や実態に対して株価が大きく売込まれている銘柄との入れ替えを頻繁に行っています。

理想的には、これから株価が上昇する可能性が高い銘柄だけのポートフォリオを常に保ちたいと考えておりますが、現実的には当ファンドに多く組み入れている中小型銘柄の日々の売買代金では、希望する株数を売買するのに時間が多くかかってしまうなどなかなか難しい状況があります。それでも少しでも理想のポートフォリオに近づけるべく、日々メンテナンスを行っているため売買回転率が高くなっています。また、チャート分析を重視しているため、一時的に株価の調整が想定される銘柄を売却し、短期的に上昇が期待される銘柄との入れ替えも行っていることも売買回転率の高い理由です。

＜ファンドマネージャーの仕事＞

私はとても恵まれた職業に就かせていただいていると感じています。これも当ファンドに継続して投資していただいている受益者の皆さま、販売や運用に関わる全ての皆さまのおかげだと思っております。お金の集まる場所には情報が集まるということがありまして、生の政治・経済の状況を知ることができてとても勉強になります。例えば、あまり関係がないと思われるスポーツや芸能の世界と政治情勢がリンクして動いていて、世の中はお金でつながっているのだなあということを実感できたりします。

もう一つ、この仕事の素晴らしいところは企業経営者の話を直接聞くことができるということです。一代で会社を大きくした創業社長は個性豊かな人が多く、話を聞いていてとても楽しいです。企業を大きくするには常識にとらわれない発想やそれを実現するための並々ならぬエネルギーが必要で、活力にあふれた人たちに直接話を聞くと、元氣をもらえて自分の運勢も良くなるように感じます。

さらには、企業訪問取材や施設見学などにより世の中の革新的な技術やサービスに触れることができます。今までで一番面白かったのは高知にある「技研製作所」です。到着するなり映像を見せていただくことになりました。洪水で河川が氾濫して堤防が決壊し、住宅が水に飲み込まれようとしています。そこへ同社の赤い杭打機がさっそうと登場し、川の水があふれている最中に作業をして最後には洪水をせき止めたのでした。「こんなの本当にできるんですか」と思わず聞くと、「できます。」と自信満々の答えをいただきました。動画は同社のホームページにありますのでぜひご覧になってください。

2016年は日本銀行のマイナス金利政策導入、英国のEU(欧州連合)離脱、米国のトランプ大統領誕生など、さまざまな出来事がめまぐるしく起こりました。このように不確実性の高い時代においては、有用な情報を持つものが勝者となります。社内スタッフとの協力のもと情報収集に努め、少しでも良いパフォーマンスを残していきたいと考えております。

引き続き「ジャパン・エクセレント」をご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以上

(注) 当資料に記載された企業はあくまでも参考のために掲載したものであり、個別企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを示唆・保証するものではありません。
現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

ジャパン・エクセレント

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- わが国の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざします。

ファンドの特色

1. わが国の株式に投資します。
 - ◆銘柄の選定においては、主に業績動向、株価のバリュエーション等に着目します。
 - ◆個別銘柄の流動性、株価水準等を考慮し、ポートフォリオを構築します。
 - 中長期的にベンチマーク（東証株価指数（TOPIX）：配当込み）を上回る投資成果をめざします。
 2. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。
 - ・マザーファンドは、「ジャパン・エクセレント・マザーファンド」です。
- ※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。**したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。**

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「中小型株式への投資リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限> 3.24%（税抜 3.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	年率 1.566% （税抜 1.45%）	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
その他の費用・ 手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問い合わせください。
※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和投資信託
Daiwa Asset Management

商号等
加入協会

大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第352号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ジャパン・エクセレント 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社愛知銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第12号	○			
株式会社愛媛銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第6号	○			
株式会社紀陽銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第8号	○			
株式会社高知銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第8号	○			
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第11号	○	○		
株式会社第四銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○	○		
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○	○		
株式会社富山銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第1号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○		
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
日の出証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第31号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
リテラ・クレア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第199号	○			

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。